

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



えんべつ 北海道立遠別農業高等学校【北海道遠別町】 えんべつちょう

選定年: R1年
(準グランプリ受賞)

概要

- 高校生が、国産自給率の低いサフォーク種の羊の飼育・加工・販売までを一貫して実施。
- 地域農業者からの要望により、地域農業者や役場も参加する協議会を設立し、地域の課題に対して高校での実践結果を地域に還元する取組を開始。

選定年(R1年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 羊(サフォーク種)の飼育から加工に関する専門部会の取り組みとして、羊の飼育から加工・販売に至る実習を実践。
- 校内で栽培している作物は、全て「有機JAS」認定。
- 校舎敷地内で年数回開催している「えんのうマルシェ」にて、農産物・羊肉加工品・草花等の販売。
- オーストラリアへの海外研修
- ネット通販サイトにて、羊肉加工品の販売



羊(サフォーク種) 校内飼育の様子



遠別農業高校の農産物・加工品

選定直後の状況

- 新聞に7回掲載
- 情報誌「広報えんべつ」に情報が掲載

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 本校で飼育しているサフォーク種の「北海道サフォーク種羊共進会(士別市)」への出品
- 管内の4Hクラブと連携したラム肉を活用した肉味噌の開発
- 肉味噌を使用し、羊の顔を肉まんの表面に表した「羊肉まん」の開発及びマルシェやイベントでの販売
- 韓国への農業視察研修(3年生)
- 町内農業者と連携したドローンによるもち米の直播栽培試験の実施
- ASIAGAPの維持・更新(もち米、ジャガイモ、たまねぎ)
- 有機JAS認証の取得(たまねぎ)
- 遠別町と連携したふるさと納税返礼品への提供(もち米、メロン、たまねぎ)
- 「えんのうマルシェ」の開催による実習生産物の販売実習の実施



サフォーク種羊共進会への出品の様子



新たに開発した「羊肉まん」



出荷に向けたメロンの選果の様子

今後の展開方向

- 今後も、持続可能な農産物の生産や地域振興につながる商品開発に向け、地域の農業者や産業界の方と連携しながら、現在の取組について改善を図りながら実施

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



やまがみ つべつちょう
株式会社山上木工【北海道津別町】

選定年: R1年
(準グランプリ受賞)

概要

- 機械力と職人技の融合により、高品質な木工品を安定的かつ効率的に生産し、国内外で販売。
- 地元の廃校の校舎を利用したTSKOOL(家具のショールーム)を運営。
- 自社ブランドのISU-WORKSの取扱店舗を国内外に展開。

選定年(R1年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 機械力と職人技の融合により、高品質な家具や建具などの木工品を安定的に効率良く生産。
- 自社ブランド「ISU-WORKS」を設立し、デザインと機能性を備えた椅子を国内71店舗で販売、海外6カ国へ製品も輸出している。
- 廃校を利用したショールーム「TSKOOL」を開設。
- 東京2020オリンピック・パラリンピックのメダルケース製作。



自社ブランド 椅子 ISU-WORKS



旧校舎を利用したショールーム TSKOOL

選定直後の状況

- 複数の業界団体の講演会や学校教育機関の講演を行った。
- 官邸で当時の安倍総理が自社の椅子に座った写真により、PRと共に国内外に向けて会社の信頼度が上がった。



木工品による温かみのある店内

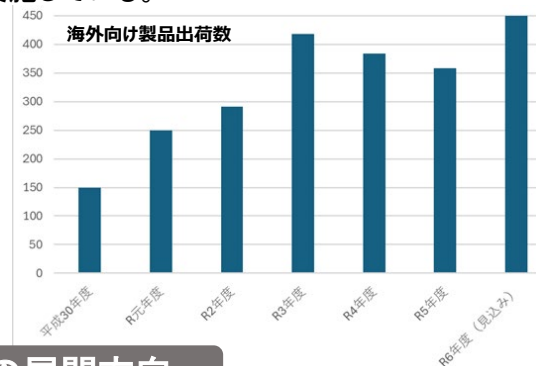


高い技術を生む「機械力」と「職人力」

現在(R6年)の状況及び今後の方向

現在の活動状況

- 企業・団体の見学や小学校～大学まで多くの学生も来店し取り組みの視察を受け入れている。
- 当初国内60店舗、海外2カ国であったが、現在は 全国71店舗、海外6カ国(香港・フランス・シンガポール・台湾・カナダ・タイ)を展開をしている。
- 高齢世代のスタッフの定年退職による新世代を受け入れる採用活動を実施している。



今後の展開方向

- 田舎から世界にチャレンジ、力強く発信・発展できる会社として、さらなる挑戦を行っている。
- 若い人材を積極的に採用し地元とともに成長をしようと取り組んでいる。
- 近隣の同業木工会社をM&Aを行いさらなる事業を拡大。地域になくてはならない家具メーカーを目指している。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



わたなべ
有限会社渡辺体験牧場【北海道弟子屈町】

てしかがちょう

選定年: R1年

概要

- 120頭の乳牛を持ち75haの草地を所有している牧場で、その傍ら牧場体験を運営。
- 乳処理業、乳製品製造業などを行い、飲食店も運営。牧場の可能性を最大限に引き出す。
- OSDGs、持続可能な牧場の取り組みの視察として修学旅行や自治体研修、県議会、市議会、町議会等を受け入れている。

選定年(R1年)前後の状況

選定時までの活動状況

- ゲストハウスの建設をきっかけに体験ツアーに取組み、酪農教育ファーム体験ツアーを実施し、中国の雑誌とHPで取り上げられたことをきっかけに、外国人のインバウンドも増加。

- 牧場の牛乳を利用した加工品の開発・販売。

選定直後の状況

- 新聞に15回以上掲載。
- 役場などでにおいて2回講演。
- 選定後に視察団体が6回訪問
- SNSやYouTubeによる情報発信を行っており、牧場の魅力を広く告知。



体験ツアーに訪れる人々



牧場の牛乳を利用した製品



北海道新聞(2024)



わたぼくちゃんねる (YouTube)

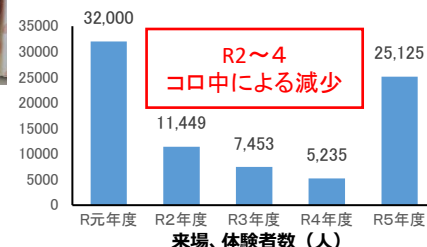
現在(R6年)の状況及び今後の方向

現在の活動状況

- 体験牧場のゲストハウスの改築を行い、高付加価値の客層を迎えて高収益化に取り組んでいる。
- 町内のホテルやチーズ工房など地産地消を目指して取引協力を図っている。
- 渡辺牧場の牛乳から作った化粧水(ミルクのしずく オールインワンスキンケア、牛乳石鹸)の開発。



牛乳より作られた化粧水



今後の展開方向

- 牛乳工場のオートメーション化など、デジタル化の向上を図っていきたい。
- 牧場の牛乳を利用した加工品、新製品の開発。
- 地元経済、観光の発展に寄与する。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



いずぬま とめ
有限会社 伊豆沼農産【宮城県登米市】

選定年: R1年

概要

○指定農家で育てられた宮城県産豚と地域食材を活用した加工施設やレストラン、直売所を開設し、創業時より6次産業化に取り組む。
○移住した女性社員が取締役となり、地域の高齢者を牽引し、食文化や農業について学ぶ体験プログラムを開発。

選定年(R1年) 前後の状況

選定時までの活動状況

○1988年、宮城県産豚と地域食材を活用した食肉加工所とレストランを開設。2000年、現在地に移転し、直売所を新規開設する。創業当時5名だった従業員は現在は35名となり、新規雇用を創出することができた。
○地域資源活用コーディネーター「食農体験ソムリエ」の認定施設として、定期的に育成研修会を開催。これまでに約100名をソムリエ認定し、体験プログラムの普及に取り組んでいる。
○2017年、食農体験ネットワーク登米協議会を設立。インバウンド受入を見据えた農泊セミナーの開催、在日外国人を対象としたモニターツアーを実施した。

選定直後の状況

○新型コロナウイルス感染症の影響により、誘客事業が一時休止となったが、2023年に再開。
○2021年地産地消等優良活動表彰 食品産業部門 農林水産大臣賞受賞
○2023年東北ニュービジネス大賞受賞
○2023ポケマルチャレンジャーアワード最優秀賞
○2020年以降 52回以上メディアに掲載
○食農体験ソムリエ研修の受講希望者が増加。
○選定実績を活用した販売促進活動を進めていくことが出来た。

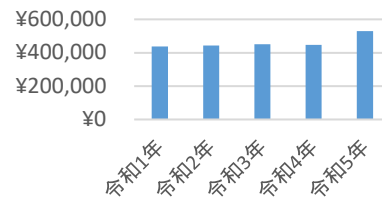
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

○海外エージェント、近隣市町村と連携したコンテンツ造成を開始。アメリカ、中国、台湾など、教育旅行を中心とした受入が増加。
○2024年度、空き家を活用した宿泊施設を開業予定。



売上高(千円)



今後の展開方向

○「むらを元気にする!」を基本コンセプトに、地域住民が主役となった農泊・インバウンド交流モデルを実現したい。
将来的には、ビジネスモデルの成功パターンを見出し、類似の課題を持つ地域にノウハウを提供する。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



株式会社 やまがたさくらんぼファーム【山形県^{てんどう}天童市】

選定年: R1年

概要

- 果樹の生産・販売・観光・加工・飲食の5本の柱で持続可能な農業経営を目指しています。
- 直販にこだわり、くだもの狩り、ショップ、自販機、通販、カフェなどさまざまな販売チャネルをつくっています。

選定年(R1年) 前後の状況

選定時までの活動状況

○地域の温泉と連携し「朝摘みさくらんぼツアー」を商品化。また、地域協議会、旅行会社と連携し農作業体験ツアーを実施。

○地域の加工業者やデザイナーと連携し、さくらんぼなどを使用した加工品を開発し、直売所とカフェを開設。



Oh!show!cafeのパフェ

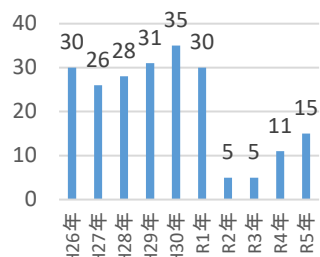
選定直後の状況

○令和2年にはコロナの影響でフルーツ狩りの入園者数が6分の1に激減したが、通販に注力して過去最高の売り上げを達成。

○新聞に30回以上掲載。

○山形県内テレビ5局で報道され、NHK「サラメシ」でも紹介された。

○視察団体が20回以上訪問。



入園者数の推移(千人単位)

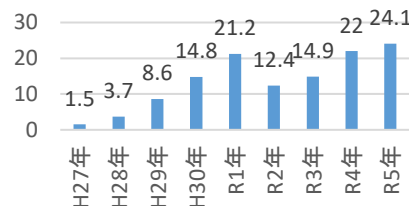
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- カフェの売り上げが16倍になり令和5年はフルーツパフェを23,000杯販売。(6次産業化)
- 障がい者を新たに2名(合計3名)加えたことで作業の細分化が実現し、健常者はよりクリエイティブな仕事ができるようになった。(農副連携)
- 7台の草刈ロボットを稼働させて作業の効率化を図っている。(スマート農業)
- 自販機を6機種14台設置して、夜間や閉園期間の販売機会ロスを減らした。



席数を増やした2階ラウンジとテラス席



カフェ売上金額の推移(百万円単位)

今後の展開方向

○令和6年に定めたSDGs宣言への取り組みを積極的に推進し、持続可能な農業経営を目指す。

○果樹園×教育で子どもたちを中心に果物の事を深く知ってもらい機会を作り熱いファンを増やす。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)

ネ オ
東京NEO-FARMERS!

し ぶ や
【東京都渋谷区】

選定年: R1年



概要

- 東京都内で新規就農した者等が、安心・安全で高品質の地元野菜を都市住民に販売。
- 都内や周辺地域で就農予定の者と情報交換を行い、就農に向けた助言や受け入れ先の調整など円滑に就農できる環境を整備。

選定年(R1年) 前後の状況

選定時までの活動状況

○マルシェを定期的に開催し、野菜の出荷等で連携する大手スーパーやレストランチェーンは3社から10社へと販路を拡大



東京NEO-FARMERS! のマルシェ

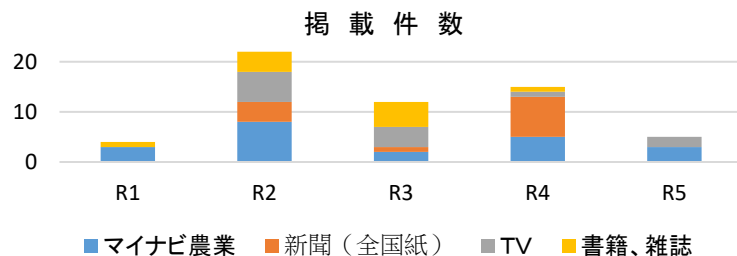
○新規就農会員数は、19名から44名に増加し、会員間で意見交換を行う場を提供。



カフェ
レストラン
との商品
開発

選定直後の状況

○都内で新規就農したメンバーがTV、新聞、雑誌に掲載



現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

○新規就農会員が44名から68名に増加。農業参入した就労継続支援A型事業所と新規就農者グループとの共同運営による常設の農産物直売所を全国で初めて開設。令和6年には移動販売も開始。



共同農産物直売所オープン

今後の展開方向

○青梅市、相模原市に生まれた2チームと共に引き続き都内各所で安心・安全で高品質の地元野菜を物流会社等と提携し都内で販売するとともに新規就農の取組を発信支援していく。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)

すぎもとせいちゃ

杉本製茶株式会社

しまだ

【静岡島田市】

選定年: R1年
(準グランプリ受賞)



概要

- 茶生産農家の所得向上及び後継者確保のため、国内の中小製茶企業に先駆け、輸出事業に着手
- 海外展示会への出展や、輸出向けの施設整備を実施。

選定年(R1年) 前後の状況

選定時までの活動状況

- 現地法人設立後、海外の茶関連展示会へ出展し、販路開拓を行った結果、現在では22ヶ国へ輸出を行い、茶・抹茶輸出売上高は6倍に増加。
- 有機抹茶製造工場を新設し、抹茶の製造能力が1.5倍に増強。
- 地元高校生による欧米の茶流通研究の支援を行う。



World Tea Expo2017出展



地元高校生への研修協力

選定直後の状況

- 選定後、茶輸出に関連した講演を依頼された。
- 他市町村からの視察が増えた。



視察風景

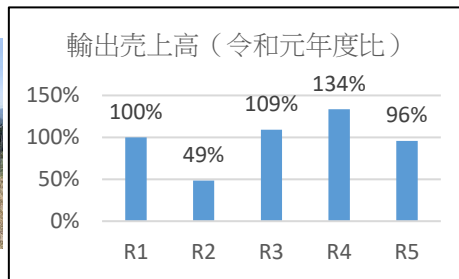
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- コロナ禍の落ち込みはあったが、輸出先は、22ヶ国から26ヶ国に拡大し輸出売上高はコロナ以前と同レベルに復調。
- 浜松有機茶推進協議会を発足し、20年来、有機茶に取り組む浜松市春野地区の荒廃茶園を管理再生し有機茶のブランド地区とする取組を開始。



浜松市春野地区の茶畑



今後の展開方向

- 春野地区生産者、輸出業者との共同会社を設立し、浜松市、JETROの助言指導を仰ぎながら有機茶輸出を行い、春野地区のブランド化、更なる売上向上を目指す。
- 有機茶葉の買い取りは適正価格で行い生産者の所得を下支えするとともに、地域の後継世代農家に対しては所得向上の一助として有機茶参入を勧奨する。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



わかさ めぐみ おばま
株式会社若狭の恵【福井県小浜市】

選定年: R1年

概要

- 景観作物のひまわりを緑肥とした米の開発・直販に加え、中山間地域で、新たな販路開拓やスマート農業など若者が魅力を感じる農業を展開。
- 地域の雇用創出のため、営農サポーター制度を実施。地域の若者とベテランが協力する体制を構築。

選定年(R1年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 米の売上高は、約7,300万円から約1.1億円へ増加(H26→H30)。
- 社員7名はすべて40歳代以下。
役員等含む正規雇用者数は3人から11人に拡大(H27→H30)。
- 営農サポーター制度による地域の高齢者等の雇用者数は、H30年度には延べ約1,500人。
- 地元小学校の農業体験・見学等の受入を行う。
- R1年度からスマート農業実証実験に参加。



地元の小学生からの農業体験等への御礼の数々

選定直後の状況

- ディスカバー農山漁村の受賞の報告に市長を訪問。その様子が新聞にも掲載された。農業関係者には受賞について反応をいただくこともある。
- ひまわりを緑肥として栽培した「ひまわり米」に注目が集まり、新たな販売先と契約を締結できた。

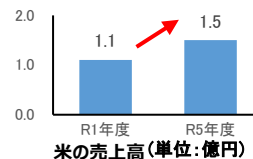


事務所に飾られた表彰式の写真等

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 米の売上高、6次産業化(商品開発)による売上高はともに、受賞当時(R1)から増加。
- 営農サポーター制度による雇用者は、約1,800人程度まで増加。雇用者が増えたことで、農繁期でも正社員に固定の休日をとらせることが可能になった。
- R1年よりスマート農業実証事業に取り組んでいる。スマート農機の活用、生産管理・行程をデジタル化することで、労働環境の改善に成功。
- 従来の米～麦～ひまわりの2年3作から、米(早生品種)→ひまわり(8月播種)→枯れたひまわりを緑肥としてすきこみ田植えを行う1年2作に切り替え、休閑期をなくすことで効率的に「ひまわり米」を栽培することに成功。



受賞当時からラベルを刷新した自社の甘酒、トマトジュース



(株)若狭の恵さんで栽培している「ひまわり畑」

今後の展開方向

- 今後は、耕地面積を維持しつつ、いまある資源を最大限効率化したい。
主に、育苗・乾燥施設等は稼働率に余裕があるため、今後は受注委託を増やしていく予定。